筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告　第31集　1991年11月

『教育実習からみた保健科教育の実態調査』

筑波大学附属駒場中・高保健体育科
小沢　治夫・入江　友生・岡崎　勝博
合田　浩二・野井　真吾
筑波大学学校教育部
深野　　明
静岡大学教育学部
渡辺　　功

『教育実習からみた保健科教育の実態調査』

筑波大学附属駒場中・高保健体育科
小沢　治夫・入江　友生・岡崎　勝博
合田　浩二・野井　真吾
筑波大学学校教育部
深野　　明
静岡大学教育学部
渡辺　　功

Ⅰ．緒言

保健学習の重要性については，複雑化・多様化する現代社会の中で健康問題がますます重大・重要になっていることからも言を待たない。したがって，学校現場における保健授業の役割も，これまで以上に重要になっている。しかしながら，そのような現状の中で，保健の授業が，必ずしも十分に機能してきたわけではない。

我々は，このような現状の問題点を明らかにするために，東京都内の現職の保健体育科教員を対象に，保健科教育についてのアンケート調査を行った。その結果，

1．教材研究を確保するための時間的余裕が必要
2．教師のための研修会の開催
3．保健の教室などの施設や教材・教具，あるいは参考書・資料などの物理的条件の整備
4．大学における教員養成の充実

などが，問題として指摘された。

またこれまでの学校保健学会による共同調査からも，教員養成大学および現職教育における保健科教育法の充実・教科専門教育の充実が望まれる，などの提案がそれらの研究報告の中でなされてきた。

そこで今回，現場教育における教育実習の充実と，大学における教員養成という観点から，教育実習生を対象に保健科教育についての調査を行い，最近の保健科教育の実態を明らかにし，今後の保健科教育が目指す方向を明らかにする目的で本調査を行った。

Ⅱ．調査方法

1．調査対象

対象は筑波大学体育専門学群に所属する学生のうち，平成２年度に教育実習を行った者50名である。

実習校の内訳は，中学校16名，高校26名，中高８名であった。

2．調査期間は1990年６月中旬から下旬にかけてである。

3．調査内容

①．実習の実施時間数と，保健および体育の授業にかけた力の割合

②．保健および体育の授業に対する実習生の感想

③．保健で取り扱われている各領域に対する実習生の感想

④．保健の授業を行っての実習生の満足度と，その不満に対する理由

⑤．保健科教育および体育科教育の問題点に関する感想

⑥．実習校の指導に対する満足度と，実習に対する満足・不満足の理由

などを中心に，アンケート紙法によって調査を行った。

Ⅲ．調査結果

1．実習の時間数は，全体の平均で，体育が25.3時間，保健が4.0時間，総実習時間は29.2時間であった（表１）。

2．「授業にかける全ウェイトを10とした時に，体育と保健の力のかけ方の比率はどうですか」という質問に対して，保健が3.6に対して体育ではほぼ２倍6.4 の回答であった。（表２）。

3．「保健の授業はあなたにとって‥‥」という質問に対して，最も多かったのは，「教材研究が大変」の60.0％であり，続いて，「楽しい・充実している・面倒くさい・つらい」の順であった（表３）。

4．「体育の授業はあなたにとって‥‥」という質問に対して，最も多かったのは，「楽しかった」の72.0％であり，続いて，「充実していた・無我夢中だった・教材研究が大変だった」の順であった（表４）。

5．自分の授業（保健）に対する満足度をパーセントで答えてもらったところ，その平均値は中学70.8％，高校52.0％，中高57.6％で，全体では57.6％であり，ほぼ６割の満足度という回答が得られた。逆にみれば不満度40％という回答になるが，その不満の理由については，教材研究の時間がない（42.0％），忙しすぎる（16.0％）が多数を占めたが，その他（32.0％）に，場慣れしていない，生徒がナメていて授業がうまく進まなかった，教えにくい単元であった，展開が下手すぎた，教える内容が難しすぎる，生徒の関心が乏しい，などの回答も多く寄せられた（表５）。

6．中学で教えられている4領域のそれぞれについて，「得意か不得意か」との問いには，心身の発達では「得意・やや得意」と回答した実習生が合わせて58.0％であったが，健康と環境では42.0％，病気の予防とけがの防止50.0％，健康と生活34.0％であった（表6）。

7．高校で教えられている4領域のそれぞれについて，「得意か不得意か」との問いには，心身の機能では「得意・やや得意」と回答した実習生が合わせて60.0％であったが，健康と環境では46.0％，集団の健康26.0％，職業と健康22.0％であった（表7）。この傾向は，生徒が一番関心を持っていると思われる領域についての回答も同様で，心身の機能，健康と環境，集団の健康，職業と健康の順で関心度が高かった。

8．現状の保健科教育を改善していくために重要なこととして，大学でもっと保健の授業のやり方を教えてほしかったと回答した実習生が48.0％と最も多く，次いで教材研究の時間がもっと欲しいとの回答が44.0％と多かった。また，大学でもっと保健に関する知識を教えてほしかった，保健の専門教員が必要だとの回答も多くみられた（表8）。

9．同様に現状の体育科教育を改善していくために重要なこととして，大学でもっと体育の授業のやり方を教えてほしかったと回答した実習生が50.0％と最も多く，次いで教材研究の時間がもっとほしいと・大学でもっと体育に関する知識を教えて欲しかったとの回答が24.0％を占めた（表9）。

10．実習中に部活の指導をした実習生は90％と高率であった。

11．「教育実習をやって，教師になる気持ちはーーーー」という問いに対して，やめようと決心した・ならないという気持ちに変化なしとの回答が合わせて18.0％みられた。それに対して，ますます強くなった・やろうと決心した，なろうという気持ちに変化なしとの回答が合わせて80.0％であった（表11）。

12．実習校における実習の指導に対する満足度は，大変満足・満足が合わせて72.0％，不満・大変不満が合わせて16.0％であった（表12）。その理由を列記したものが表12であるが，大別すると前述の結果3．4．5のごとくである。

表１．実習の時間数　　（時間）

	総実習時間	体育実習時間	保健実習時間
中学	24.9	23.2	1.8
高校	32.7	27.3	5.3
中学・高校	26.5	22.6	3.9
平均	29.2	25.3	4.0

表２．保健と体育の授業にかけた力の比率

	体育　対　保健
中学	8.7　対　1.3
高校	5.3　対　4.7
中学・高校	5.1　対　4.9
平均	6.4　対　3.6

表３．保健の授業に対する感想（複数回答）　　（%）

感想の内容	中学	高校	中高	全体
充実していた	31.3	19.2	12.5	22.0
楽しかった	31.3	19.2	62.5	30.0
教材研究が大変だった	37.5	76.9	50.0	60.0
つらかった	6.3	23.1	12.5	16.0
面倒くさかった	0.	38.5	0.	20.0
実習なのでやむをえずやった	6.3%	19.2	0	12.0
無我夢中だった	25.0	53.8	25.0	40.0

表４．体育の授業に対する感想（複数回答）　　（%）

感想の内容	中学	高校	中高	平均
充実していた	56.3	53.8	25.0	50.0
楽しかった	75.0	73.1	75.0	72.0
教材研究が大変だった	31.3	23.1	0.	30.0
つらかった	25.0	15.4	12.5	18.0
面倒くさかった	12.5	11.5	0.	10.0
実習なのでやむをえずやった	0	3.8	12.5	2.0
無我夢中だった	56.3	26.9	50.0	40.0

表５．教育実習に対する不満の理由　　（％）

	中学	高校	中高	平均
教材研究の時間がない	25.0	42.3	75.0	42.0
教える内容が高度すぎる	12.5	11.5	0.	10.0
忙しすぎる	12.5	23.1	0.	16.0
その他	50.0	23.1	25.0	32.0

（その他）
- 場慣れしていない。
- 生徒がナメていて授業がうまく進まなかった
- 教えにくい単元であった。
- 展開が下手すぎた。
- 生徒の興味を引きにくい分野であり易しく教えられなかった。
- 保健として内容が難しい。
- 保健の領域でどこまで教えるべきか判断しにくいので十分な授業をしてやれなかった
- 時間（教える）が足りなかった。
- １クラスしか持たされなかった。同じ授業を２時間やればもっと充実した内容にできそうな気がした。
- どの程度まで教えてよいか分からなかった。

表６．「現行の指導要領では、中学では以下の四領域が教えられています。あなたにとって、どのように思いますか」という問いに対する回答。　　（％）

	得意	やや得意	どちらともいえない	あまり 得意でない	不得意
心身の発達	10.0	48.0	32.0	4.0	0
健康と環境	12.0	30.0	42.0	10.0	0
病気の予防	20.0	30.0	32.0	12.0	0
健康と生活	12.0	22.0	46.0	12.0	0

表７．「現行の指導要領では、高校では以下の四領域が教えられています。あなたにとって、どのようにお感じですか」という問いに対する回答。　　（％）

	得意	やや得意	どちらともいえない	あまり 得意でない	不得意
心身の機能	8.0	52.0	28.0	10.0	0
健康と環境	10.0	36.0	42.0	10.0	0
集団の健康	8.0	18.0	56.0	16.0	0
職業と健康	0.	22.0	62.0	12.0	0

表８．保健に関する感想（複数回答）　（%）

感想の内容	中学	高校	中高	全体
大学でもっと保健に関する知識を教えて欲しかった	18.8	15.4	25.0	20.0
大学でもっと保健の授業のやり方を教えて欲しかった	56.3	38.5	62.5	48.0
教育実習をもっと充実すべきだ。	6.3	19.2	12.5	14.0
保健の授業は増やすべきだ。	6.3	7.8	0	6.0
保健の授業は減らすべきだ。	0	3.8	0	2.0
教材研究の時間がもっと欲しい。	18.8	57.7	50.0	44.0
保健は保健の専門の教員がいて教えたほうがよい		47.3	25.0	26.0

表９．体育に関する感想（複数回答）　（%）

感想の内容	中学	高校	中高	全体
大学でもっと体育に関する知識を教えて欲しかった	12.5	23.2	50.0	24.0
大学でもっと体育の授業のやり方を教えて欲しかった	62.5	34.6	75.0	50.0
教育実習をもっと充実すべきだ。	12.5	11.5	12.5	12.0
教材研究の時間がもっと欲しい。	25.0	26.9	12.5	24.0

表１０．部活の指導の有無　（%）

	中学	高校	中高	平均
はい	81.3	96.2	87.5	90.0
いいえ	18.8	3.8	12.5	10.0

表１１．「教育実習をやって、教師になる気持は、－－－－－－－」という問いに対する回答。　（%）

	中学	高校	中高	全体
ますます強くなった	50.0%	30.8	0	32.0
なろうと決心した	25.0%	26.9	25.0	24.0
やめようと決心した	12.5%	0	0	4.0
自信を失った	0	7.8	25.0	8.0
不安になった	12.5	15.4	25.0	16.0
なろうという気持に変化なし	18.8	26.9	25.0	24.0
ならないという気持に変化なし	18.8	11.5	12.5	14.0

表１２．実習の指導に対する満足度　（%）

	中学	高校	中高	全体
大変満足	25.0	34.6	12.5	28.0
満足	62.5	34.6	37.5	44.0
どちらとも言えない	12.5	7.8	37.5	14.0
不満	6.3	19.2	12.5	14.0
大変不満	0	3.8	0	2.0

表１３．実習に対する満足（○）・不満足（●）の理由

中学	○生徒が素直で指導教官の方も大変親切に指導してくださったから。 ○親切な先生でよかった。また、生徒も大変かわいく楽しい実習が行えた。 ○充実した実習だった。 ○大変勉強になった。 ○楽しかった。 ○よく指導していただきとても楽しかった。 ●授業実習は少なかったので楽であったが、もう少しアドバイスや指示をしてほしかった。 ●指導が“いいかげん”という感じで、特に個人的にフィーリングの合う人でなかった為。
高校	○教案もみるが、実際の授業の状態をとても評価してくれたため。 ○個性を伸ばそうとしてくれていた。指導案を書かないほうが私の為になると考えてくれた授業もあった。 ○詳しく親身になって指導いただいた。 ○とても一生懸命指導してくれた。 ○授業の形がしっかりできていた。 ○親切にまた真剣に指導してくれた。 ○いろいろな面できちんと指導してくださった。 ○勉強になった。 ○丁寧・親切に教授頂いた。 ○細かい点まで指導していただいた。 ○発問の作り方を教えていただき勉強になった。 ○専門的な指導をしていただいた。 ○授業をたくさんできたから。（参観は少ない） ・非常に親切であったが、もう少し授業参観をさせてもらいたかった。 ●時間に追い回され過ぎた。 ●授業数が少なかったことと、担任を持てなかったために生徒とあまり仲良くなれなかったため。 ●もっと指導していただけると思っていたのに、思っていたほど指導が受けられなかった。 ●指導教官の手抜きでほとんど指導を受けなかった。
中高	○指導教官の方針が型にはまったものでなく、実習生自身の考えたやり方を尊重してくださった。 ○実習内容に満足というよりは、生徒たちにうちとけたことに満足 ●生徒ともう少し長くつきあえたらもっと良い授業ができたと思う。 ●先生方によって指導の観点が違っていたので。 ●・指導教官が非常勤であった。

Ⅳ．考察

これまでに多くの保健科教育に関する実態調査が行われ，そこから明らかにされた諸問題が，保健科教育の課題として，学校保健学会を中心に検討されてきた。その結果，保健科教育は質量の面でも明らかに変化してきたと思われるが，実際には「体育」の教師が集まれば，つい保健は疎んじられる旨の会話になりがちで，いまだ旧態依然とした点についての問題も多く，課題はまだまだ山積みされていると思われる。これはわれわれがおこなった都内高校の保健体育教員に対するアンケートの結果からも，またこれまでの学会報告等からも指摘できるところである。本報告では，このような結果を踏まえて，教育実習の調査にしぼって，その結果から若干の考察を試みたい。

教師としての仕事は，教科指導にとどまらず，学級経営，クラブ運営など多岐にわたる。どうしても限られた時間のなかでしか，これらの仕事のやりくりはできない。実際，校務のなかで教科指導にかける力の配分は33.7％で必ずしも大きくない。さらに授業にかけるウェイトを体育と保健で比較した場合，教師では，その配分は，体育6.6に対して保健3.4と，教育実習生で体育6.4に対して保健3.6と，いずれも体育にかける比率が高かった。これは，体育保健の時間数の配分を考慮すると，高校３年間で体育が11単位，保健が２単位，中学３年間では体育が最大で8.3単位，保健が1.7単位であるので，その配分比は体育8.39，保健1.61になる。したがって，この比率で比較してみると，多くの実習生が体育より保健の方にウェイトをかけていると考えられる。

なお，今回調査対象となった実習生の実習時間は，これまでの筑波大学の実習生の平均に対して，体育で4.3時間少なく，保健で1.2時間多かった。

「保健の授業は教材研究が大変」と回答した実習生は約６割と高率であったが，一方で「楽しい・充実している」との回答も多くみられた。また，自分の授業に対する満足度はほぼ６割弱で，不満な理由としては，「忙し過ぎて十分な教材研究の時間が取れない」との回答が最も多く，これは先の授業にかけるウェイトの結果ともほぼ一致していた。

すなわち，保健体育の実習生は，忙しくて時間がないために保健の授業の準備にかける時間が足りなく，そのため教材研究も大変で面倒だが，その反面，体育実技では味わえない楽しさや充実感を感じ，もっと保健の授業にも力を入れたいと感じていることが推測できる。

また，クラブ指導に携わった実習生は90％であったが，これは他の教科の実習生の割合より格段に高いことは現場で見ていて強く感ずるところであるが，クラブ指導にかかわる時間も忙しさに関係していると思われる。

高校では現在扱われている保健の４領域では，心身の機能について「得意またはやや得意」とは回答した実習生が60.0％，教師が73％と最も多いが，健康と環境ではこれが46.0％，36.5％，集団の健康では26.0％，34.3％，職業と健康ではわずか22.0％，8.4％であった。実習生も現職の教師も，心身の機能が最も得意で，職業と健康の単元が最も不得意という傾向は同じであるが，

得意不得意の差が教師に比べて小さい。これは中学校の単元についても同様の傾向で，集団の健康や職業と健康の単元についての大学における教育が不足しているとも考えられ，また経験豊富な教師の方がさらにその傾向が強いことからは，この単元の取り扱いにくさと難しさが伺える。

約4週間の教育実習を終えてみて保健について感じたこと，つまり現状の保健科教育を改善していくための問題点として上げられることは，「大学でもっと保健の授業のやり方を教えてほしかった」が48.0%，「教材研究の時間がもっと欲しい」が44.0%で，これは現職教員の結果ともほぼ同様であった。これはこれまでに報告されてきた傾向とも同様の結果であり，あいかわらず現行の大学における教員養成の問題点も指摘される。

松岡・渡辺・福西は免許法による単位では保健科教育が学生にも十分でない，保健科教育領域を指導できる教官の充実度が低い，現代の教育現場のニーズにあった指導がなされていないと指摘しているが，これらの点に関しても改善が十分に進んでいるとは言えない状態であると考えられる。内山らによる学校保健学会共同研究による報告では，初等・中等教育に携わった大学教員とそうでない教員の比較から，経験のある教員の方が保健科教育に対する問題意識も高いことが明らかにされているが，にもかかわらずこの分野における問題がなかなか解決されていかないのは，森らも指摘するように，ひとつの大学で改革していくことの難しさが上げられよう。

しかし，現実に生徒を預かる現場では，早くこのような現状が改善されることは切実な問題であって，社会学分野の修得がなされておらず健康観も持たずに教育実習に来る学生が多いこと（深野），ペーパーティーチャーが増加していること（内山）などもますます実習校の負担も重くしており（須藤），保健科教育の進展の妨げになっていると言わざるをえない。

以上まとめてみると，本調査による結果はこれまでの調査報告とも同様の傾向を示し，保健科教育が着実に改善されているとは言っても，その問題点，特に大学における教員養成について本質的に変わるものではなく，まだまだ課題が多く残されていると思われた。

本論文の一部は第37回に日本学校保健学会（1990，札幌）において発表した。

参考文献

1）大津一義　他：中学校・高等学校における保健授業に関する調査研究，学校保健研究，21（11），502～512，1979.

2）上野純子　他：教師（中・高校）を対象にした保健授業の実態に関する調査研究，学校保健研究，22（10），458～468，1980.

3）上野純子　他：教師（中・高校）を対象にした保健授業の実態に関する調査研究，学校保健研究，23（10）452～462，1981.

4）和唐正勝　他：生徒から見た保健授業の実態に関する調査研究，学校保健研究，23（10），474～484，1981.

5）渡辺功　：中学校における保健授業の実態調査に関する研究，学校保健研究，24（5），234

～241，1982.
6）渡辺功・伊藤二郎：保健学習の実態とその問題点，学校保健研究，12（11），523～527，1970.
7）大塚正八郎・藤沢邦彦：都内の高・中学校における保健科教育について二・三の検討，東京教育大学体育学部紀要，11，129～132，1972.
8）田原靖昭：保健科教育と体育との関連と問題点，17（8），377～381，1975.
9）森昭三：保健の教材つくり（高校），学校保健研究，21(6)，261～265，1979.
10）深野明：保健科教科に望まれるもの，学校保健研究，18（8），363～366，1976.
11）和田雅史：保健科教師の資質，学校保健研究，26（5），216～220，1984.
12）松岡弘：保健系カリキュラム編成はいかにあるべきか，学校保健研究，20（9），412～416，1978.
13）深野明：保健授業を育てるには　問題点と対策（高校），学校保健研究，20（10），473～478，1978.
14）渡辺功：保健授業と教師の指導性，学校保健研究，20（10）462～467，1978.
15）森昭三：保健担当教師養成と保健科教育法，学校保健研究，17（8），386～390，1975.
16）福西孝允：現場（教育実習）からみた保健科教員養成の問題，学校保健研究，20（9），421～423，1978.
17）深野明：現場の教育実習からみた保健科教員養成の問題点，学校保健研究，20（9）424～428，1978.
18）内山源　他：教員養成大学における保健体育科教育法及び教育実習等に関する調査研究，学校保健研究，21（11），513～522，1979.
19）内山源　他：教員養成系大学における保健体育科教育法および教育実習等に関する実態調査研究，学校保健研究，23（10）469～478，1981.
20）内山源　他：教員養成系大学における保健体育科教育法及び教育実習等に関する第二実態調査研究，学校保健研究，23（10）463～473，1981.
21）内山源　他：保健科教育実習の現状と問題点，学校保健研究，26（10），452～459，1984.
22）須藤正己：保健科教育実習の在り方，学校保健研究，26（10）460～465，1984.
23）佐伯重幸：教員養成大学・学部における保健科教育実習，学校保健研究，26（10），469～473，1984.
24）小沢治夫，渡辺功：都内高等学校における保健科教育の実態調査，33（11），印刷中，1991.
25）筑波大学体育専門学群教育実習委員会：昭和61年度教育実習に関する調査報告書，1～17，1986.
26）筑波大学体育専門学群教育実習委員会：昭和63年度教育実習に関する調査報告書，1～22，1988.